

平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果  
国立大学法人奈良教育大学

## 1 全体評価

奈良教育大学は、豊かな人間性と高い教養を備えた人材、特に有能な教員を養成して、我が国の教育の発展・向上に寄与することを社会的使命としている。第3期中期目標期間においては、能力の向上を目指し常に学び続ける教員を養成し、持続可能な社会の創造に寄与しうる教育を推進するとともに、知の創出と教育的課題への対応を主軸とした研究の成果に基づいた教育及び実践的活動を推進すること、また、地域の教育に対する支援を強化し、教員研修並びに地域の教育課題に対応することを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、現代の教育課題に対応する教育及び研修のプログラムを開発するための教育研究の取組を実施するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

### （「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成30年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 平成29年度に公表したアドミSSION・ポリシーに基づき、教育学部アドミSSION・オフィス入試における専修別選考について各専修の実施方法案を確認するとともに、共通選考については教育学部アドミSSION・オフィス入試共通選考実施専門部会において検討を進め、具体的実施方法のフレームワークについて決定している。（ユニット「教育委員会・学校・地域との組織的連携・協働による、教員養成・研究機能の強化」に関する取組）

## 2 項目別評価

<評価結果の概況>	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

## I. 業務運営・財務内容等の状況

## (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

## 【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成29年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されていること等を総合的に勘案したことによる。

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

## ○ 工事・設計業務入札契約の適正実施

阪奈和5国立大学法人（奈良教育大学、大阪教育大学、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、和歌山大学）が共同で公共工事入札監視委員会を設置し、委員会で審査を受けることにより、工事・設計業務入札契約を適正に実施している。

## (2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

## 【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

### (3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

#### 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

### (4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守

#### 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

#### ○ 学生に対する法令遵守（コンプライアンス）に関する新たな取組

学生が正しく研究活動を行うことを目的として、新たに必修科目「大学での学び入門」において『学びの基礎を身につける「学術情報の入手方法・研究倫理」』として学部1年次生を対象に研究倫理教育を実施している。研究倫理教育は、研究不正防止推進委員会委員が講師として講座、専修別に計6回実施し、欠席した学生には録画した動画の視聴を義務づけ、全員の受講を確認している。

## Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成30年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

### ○ 附属学校の取組

附属小学校において、不登校傾向など多様なニーズのある児童に対し、スクールカウンセラーと連携して、保健室や通級指導教室等での対応に加えて、大学生が週1～2回児童と1対1で過ごすケアを行っている。その結果、児童の継続的な登校に改善が見られるとともに、対応した学生の教育臨床力を向上させている。

### ○ ESD（持続可能な開発のための教育）を核とした教員養成

ESDへの理解を深め実践意欲を向上させるための研修として、ESD連続セミナー（奈良市、橋本市）や、授業づくりセミナー（川上村の「森と水の源流館」）を実施し、ESDティーチャー（現職教員向け）プログラムでのESDティーチャーの認定者数が昨年度より増加している（ESDティーチャー19名、マスター2名、スペシャリスト5名）。さらに、全国5カ所（仙台市、東京都、長崎市、羅臼町、広陵町）でESDティーチャープログラムを展開し、12名のESDティーチャーを育成している。